



弥生人のそっくりさん探し

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

久しぶりに楽しいニュースがありましたので、ご紹介します。鳥取県鳥取市の青谷町にある弥生時代の遺跡 青谷上寺地遺跡から見つかった男性頭蓋骨が復顔され、展示されています。1800年前のこの男性のDNA分析では、父親は縄文系、母親は渡来系だったそうです。復顔された顔を見ると、現代人と変わらないお顔に、親近感を感じます。平井伸治知事も「その辺りに居るお兄ちゃんのような顔で、間違いなくわれわれの祖先だと思う」と言ったとか。鳥取県は「青谷弥生人」のそっくりさん募集と名前の募集を行ってきたところ、全国からそっくりさん募集に215件、名前募集に626件、合わせて奇跡の「841やよい」件の応募があったそうです。今後、応募215人はまずAIの審査で20人に絞り、同遺跡を取材してきたライターや遺跡近くの飲食店主らで構成する審査員3人が入賞者を選んだ。県は5月

ごろに開催予定のイベント「青谷弥生人大集合ツアー」に10人を招き、グランプリを決定するそうです。入賞者のお一人は「いろんな人からお前がいるぞ、お前がいるぞと言われて、青谷弥生人を見て自分がい」た。とのこと。ご先祖さまの名前は、青谷上寺郎さんに決定したよう、鳥取県のHP、YouTubeでも見られます。

ヤフリーニュースより)

コロナ禍で頑張る 中小企業

日本の頑張っている中小企業のサイトがありましたので、一部をご紹介します。日本政策金融公庫より

株式会社南部美人 コロナ禍で開始した消毒用エタノール代替品の製造過程で得た技術や設備を活用し、「二戸産の「浄法寺漆」、久慈市で生産される「百樺の活性炭」等の地域素材を使用したスピリッツ類（ジン、ウォッカ）の製造を決断。外出自粛等で飲食店や宿泊施設

酒販店等、日本酒を取り巻く業界に幅広く需要減少の影響が及んでいる中、酒米の大量廃棄が懸念されていたことから、新製品のベースには酒米を使用。日本酒を支える農家に安心して酒米を生産してもらうことが蔵元としての使命であるとの思いから挑戦を続けている。

編集後記

復顔って、いままでも、ちよつと怖い感じがありました。が、明るすぎて笑ってしまふほど、楽しいイベントだと思えました。1800年前から私達は、あまり変わらない顔で頑張っています。コロナ禍となつてまだ、数年です。前向きに強く明るくいきたいと思えました。